



Avid Media Composer®

What's New for Version 2024.10

重要

インストールやソフトウェアのご使用前に、この文書をお読みいただくことをお勧めします。

最新の情報が追加される場合があります。[Avid Knowledge Base](#) を常にご確認ください。

 <https://www.avid.com/support>にて、常に最新のソフトウェアアップデートをご確認ください。

目次

- [Avid Titler+](#)
- [タイムライン波形表示オプション](#)
- [タイムコードで配置](#)
- [文字起こしツールの改良](#)
- [リストツールで Unicode のファイル出力をサポート](#)
- [マーカーツールのパフォーマンス改善](#)
- [NRCS ウィンドウでシークエンステンプレートをサポート](#)

Avid Titler+

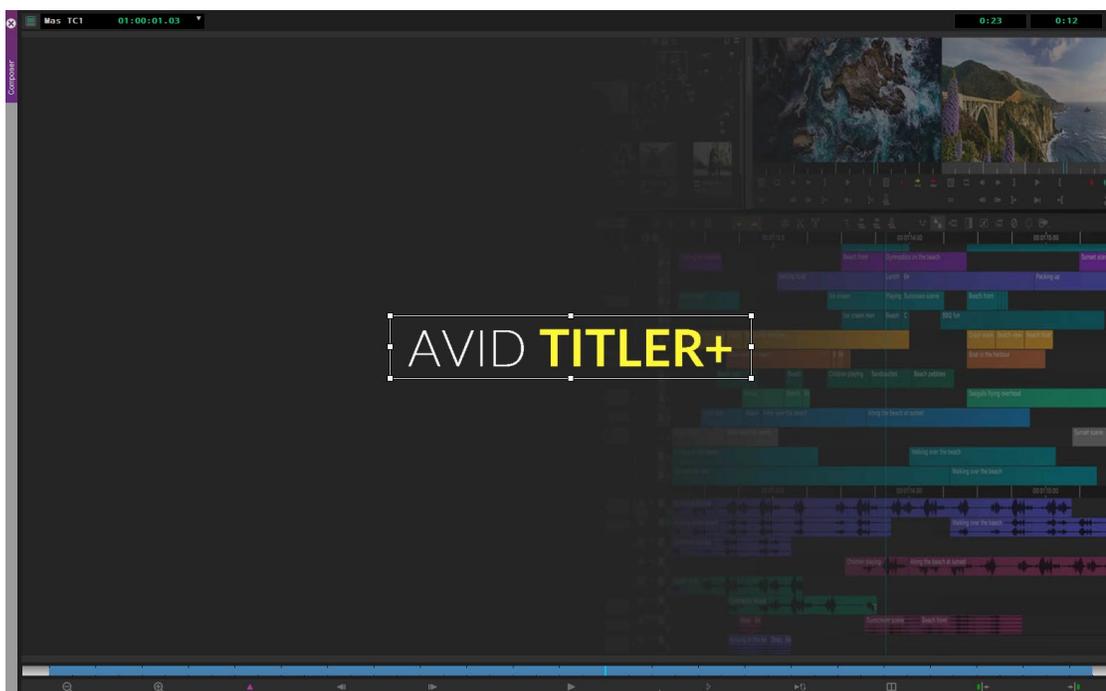
Avid Titler+ はエフェクトベースのツールで、ビューア内でタイトルを作成、編集できます。Media Composer v2024.10 で Avid Titler+ は刷新され、改善されました。

⚠️ 以前のバージョンの Titler+ で作成したタイトルはプロモートされません。

⚠️ 新しい Titler+ は GPU エフェクトであり、GPU 仕様が最低稼働要件に満たないシステムでは起動しません。GPU の最低メモリ要件は 2048 MB です。

パフォーマンスと安定性の改善

Avid Titler+ はアーキテクチャーを完全に刷新し、数多くの機能強化と追加機能により、パフォーマンスと安定性が大幅に向上しました。タイトルの操作、入力、スタック、レンダリングを行う際に、すぐに改善に気付くでしょう。



パフォーマンスと安定性の改善

Avid Titler+ ダッシュボードとエフェクト エディターは新しいツールバーを備えており、作業方法を柔軟に選択できます。ダッシュボードには必須のツールのみが含まれていますが、エフェクト エディターには使用可能なすべてのパラメーターとアニメーション機能が含まれています。ダッシュボードウィンドウを消した場合でも、エフェクトエディターのツールバーの上部にあるボタンを使って必要な時に起動できます。パラメーターはコンテキストを認識し、選択されたオブジェクトを元に関連するパラメーターのみを有効にするよう動的に更新されるため、オブジェクトとのやり取りが非常に簡単で直感的になります。

新しいオーバーレイ システムにより、ビューア内のオブジェクトとのやり取りがスムーズになり、半透明の選択でテキストを強調表示する機能が追加され、テキストの選択と操作が簡単になります。

バウンディング・ボックスとのやり取りも変更されました。デフォルトでは、(モディファイアキーなしで) サイズ変更 を行うと、ボックス内のテキストが折り返され、テキス

トの構造が簡素化されます。テキスト ツールを使用すると、ビューア内でクリックしてドラッグすることで、入力を始める前に段落を定義するバウンディング・ボックスを作成することもできます。



テキストのサイズを変更する場合、フォントサイズまたはスケールのパラメーターを使用するか、モディファイアキーを使用してビューア内で変更することができます。Shift キーを押しながらボックスのコーナーをドラッグすると、縦横比を維持したまま拡大縮小し、Option キー (macOS) または Alt キー (Windows) を押しながらドラッグすると、自由に拡大縮小します (結果としてテキストは歪みます)。Cmd キー (macOS) または Ctrl キー (Windows) を押しながらコーナーをドラッグすると、アンカーポイントからテキストが拡大縮小されます。

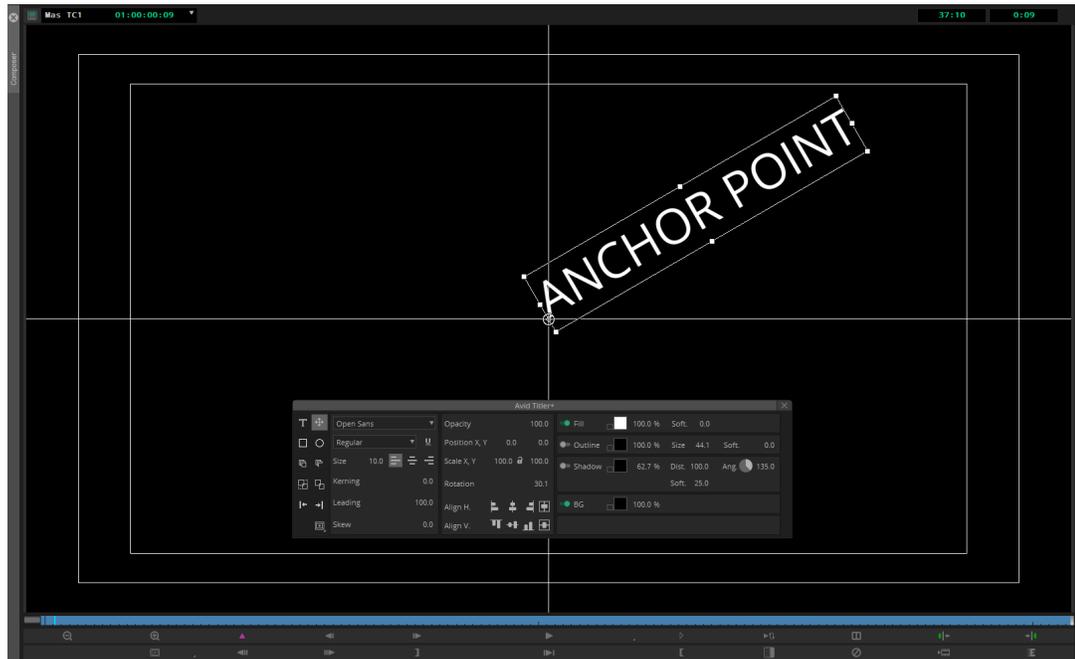
キーボードショートカットを組み合わせることで、アンカーポイントから縦横比を維持したまま拡大縮小する (Shift + Cmd + ドラッグ (mac)、Shift + Ctrl + ドラッグ (Windows)) など、目的の結果を得ることができます。Cmd + C と Cmd + V (macOS)、または Ctrl + C と Ctrl + V (Windows) を使用してオブジェクトをコピーして貼り付けることもできます。

新しい座標システムとアンカーポイント

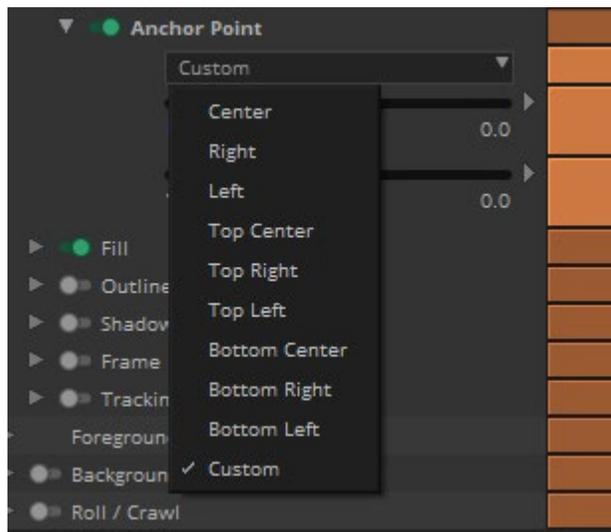
一貫性があり論理的なユニバーサル座標系を採用しました。以前は、座標はオブジェクトごとに定義されていたため、複数のオブジェクトがフレーム内の異なる位置で“0,0”に設定される可能性がありました。今後は”0,0”は常にフレームの中心であり、Media Composer の他のエフェクトと同じです。

アンカーポイントも強化され、テキストおよびシェイプオブジェクト上の十字線としてビューアに表示されます。アンカーポイントは、テキストまたはシェイプの位置、スケール、回転が行われる場所を決定します。

テキストの位置揃えは、テキストの方向も定義します。たとえば、左揃えのテキスト (デフォルト) は、入力、カーニングの追加、またはフォントサイズの変更時に左から右に拡大します。

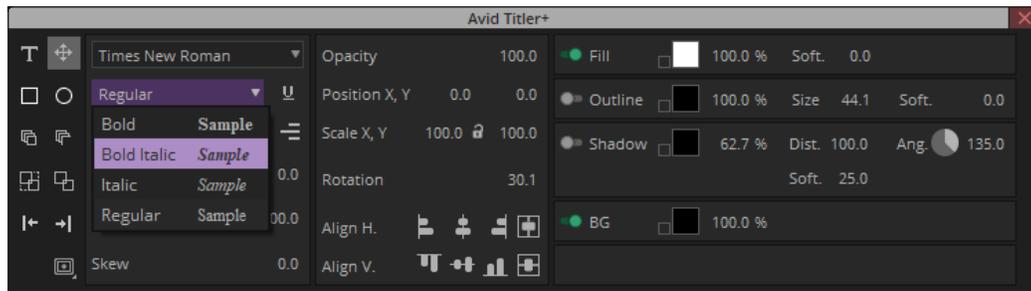


アンカーポイントは変形も定義します。オブジェクトの位置、回転、スケールはすべてアンカーポイントの位置を基準にしています。新しいアンカーポイントプリセットメニューにより配置がさらに簡素化され、アニメーションやより複雑なデザインの作成が簡単になります。たとえば、プリセットを選択することで、テキストオブジェクトの中央にアンカーポイントを配置できます。



フォントと言語サポートの改善

アップグレードされた Avid Title+ は、包括的なフォントと言語のサポートを提供し、幅広いクリエイティブニーズに対応します。クロスプラットフォームなフォントの互換性と、フォントスタイルの直感的なドロップダウンメニューが新たに追加され、TrueType、OpenType、FreeType のすべてのフォントが表示されます。さらに、改善された多言語サポートにより、多様なフォントやスクリプトをシームレスに操作でき、クリエイティブな柔軟性が向上します。



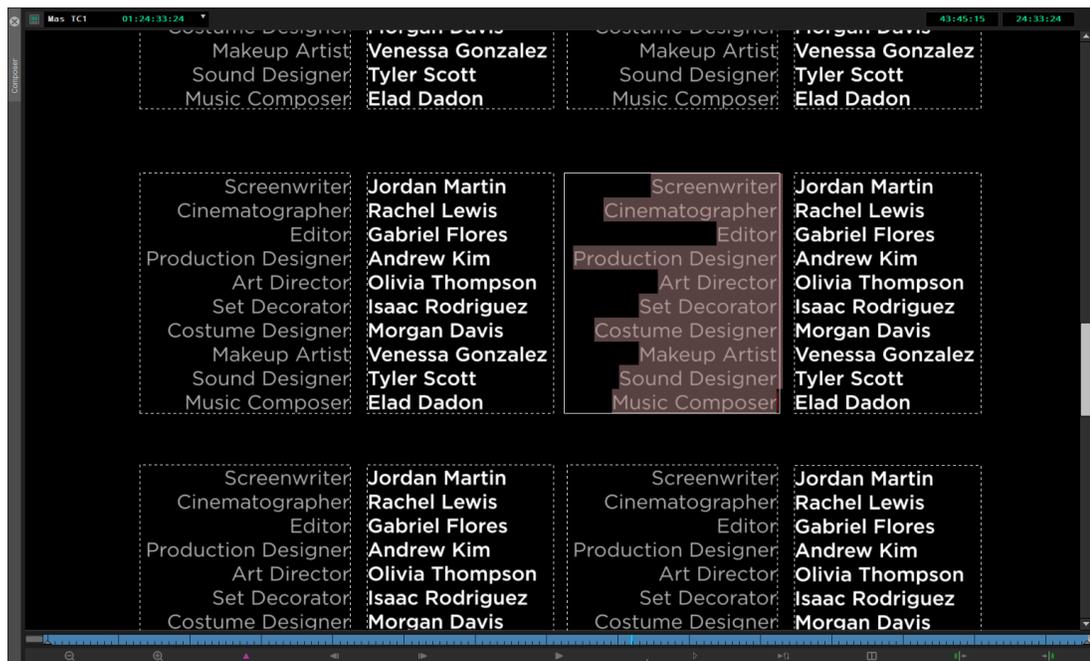
Transform オプションの追加

Transform オプションの新しい **Opacity** パラメータは、テキストまたは図形のフィル、アウトライン、シャドウを含むオブジェクト全体に作用します (これらのオプションは個別にも使用できます)。

エフェクトエディターにはフォアグラウンドコントロールも追加されました。Foreground、Background、Roll/Crawl は、1つのオブジェクトだけでなく、適用されたエフェクト内のすべてのオブジェクト (グローバルグループ) に影響します。オブジェクトの選択を解除した場合でも、Foreground、Background、Roll/Crawl のコントロールにはアクセスできます。Foreground コントロールには、アニメーションを作成するのに役立つフレーム (上、下、左、右) のクロップが含まれます。Opacity と Fill Overlay は、すべてのオブジェクトの外観を一度に変更するための追加オプションを提供します。

Roll/Crawl の簡素化

ロールとクロールも強化され、クレジットの作成とフレーム内の情報の表示が簡単になりました。有効にすると、エフェクトエディターにアニメーショングラフの線が表示され、編集モードでテキストを編集できます。編集モードをオフにするか、タイムラインで再生してスクラブすると、テキストをプレビューできます。



パラメーターのアニメーション

新しい Avid Titler+ ではほぼすべてのパラメーターをアニメーション化できるため、クリエイティブな可能性が広がります。色、アウトライン、マスター透明度、カーニングやス

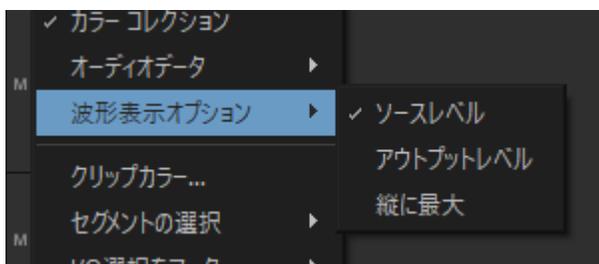
キュー（斜体）などのテキストの変形がアニメーション化できます。

トラッキングの統合

画像のトラッキングデータにタイトルやシェイプをシームレスに追従できるため、映像内のオブジェクトや動きに追従する動的なテキストが可能になり、視覚的な効果が強化されます。

タイムライン波形表示オプション

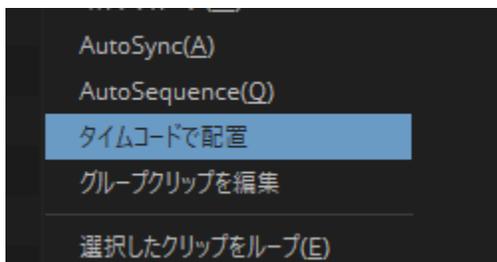
タイムラインの「波形表示オプション」を使って、波形表示の方法を選択できます。タイムラインファストメニューから「波形表示オプション」を選択し、サブメニューから希望する表示方法を選択してください。



- ソースレベル：オリジナルのレベルを表示します。現行の動作です。
- アウトプットレベル：クリップゲインやボリューム、Audio Suite エフェクト、トランジションエフェクト等により変更されたレベルを表示します。現在のオーディオレベルを正しく把握できます。
- 縦に最大：セリフとの同期作業等において、波形を最大化してピークポイントを見やすくします。

タイムコードで配置

「タイムコードで配置」は、クリップを、そのソース TC を使ってシークエンスに配置します。クリップを少ないクリック数でタイムコード上に配置できます。例えば、PTXM インポートで作成されたビン内のクリップをシークエンスに追加できます。AutoSequence を作成しなくても、クリップを対応するソース TC でシンクマップに追加することもできます。



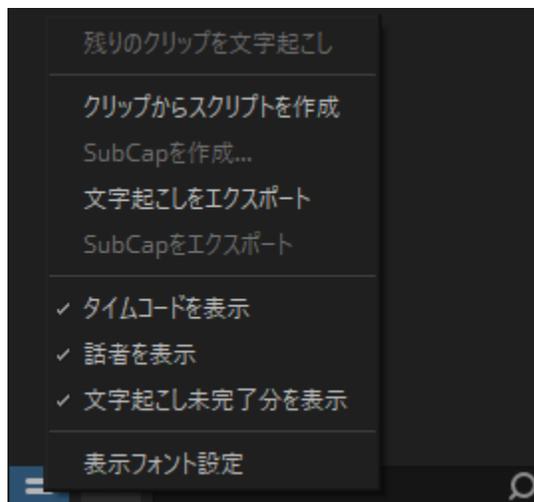
「タイムコードで配置」はクリップにもシークエンスにも使用できます。また、ビンからでもソースモニターからでも使用できます。ビンまたはソースモニター内で右クリックするか、[クリップ]メニュー>[タイムコードで配置]を選択してください（キーボードショ

ートカットとして登録することもできます)。

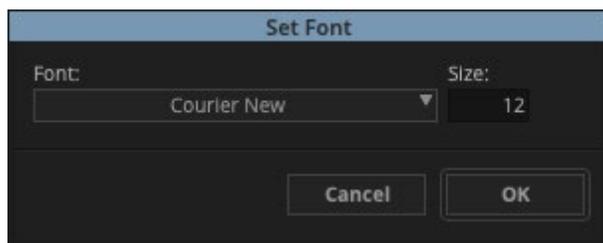
「タイムコードで配置」では、タイムラインにクリップを追加するときにトラックの選択が考慮されます。トラックが足りない場合は、必要に応じて新しいトラックが作成されます。「タイムコードで配置」を使用するときに Option (macOS) または Alt (Windows) キーを押したままにすると、トラックの選択は無視され、素材は常に新しいトラックに追加されます。ピンから「タイムコードで配置」を使用する場合は、ソースの In 点と Out 点は無視されますが、ソースモニターから「タイムコードで配置」を使用する場合は In/Out 点を使用します。レコード側に In/Out 点がある場合は、「タイムコードで配置」はこれを考慮します。

文字起こしツールの改良

文字起こしツールにファストメニューが追加され、クリップからのスクリプトの作成、SubCap の作成、文字起こしのエクスポート、SubCap のエクスポートといった操作が簡単に実行できるようになりました。



また、タイムコードや話者 ID の表示/非表示、フォントやサイズの変更を設定することで、文字起こしツールのレイアウトをカスタマイズできます。



ソース/レコード切り替えボタン

ソース、レコードのどちらの文字起こしも表示できます。文字起こしツールのソース/レコード切り替えボタンで表示する文字起こしの内容を切り替え、文字を選択することでその場所へ移動し、文字を選択することで In/Out 点をつけ、キーボードショートカットで編集を行うことができます。



まだ文字起こしが完了していないクリップについては、タイムコード、クリップ名とステータスが表示されます。[文字起こし] ボタンをクリックすることで、フォアグラウンドで

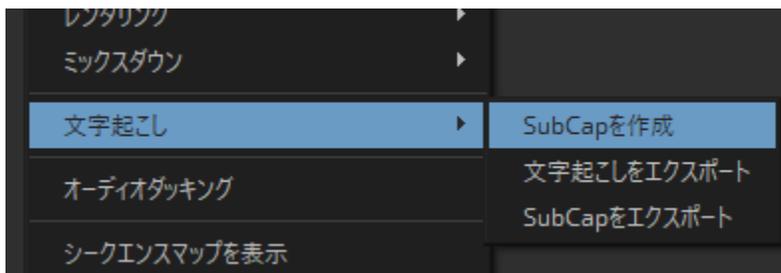
文字起こしが開始されます。この表示は、ファストメニューから [文字起こし未完了分を表示] の選択を外すことで、非表示にすることもできます。文字起こし未完了分をすべて文字起こししたい場合はファストメニューから [残りのクリップを文字起こし] を選択してください。フォアグラウンドで文字起こしを実行します。

シークエンスの文字起こしを表示することで、現在どの部分を再生しているのかを把握することができます。In/Out 点がついている部分はテキストが選択され、現在再生している部分は文字がハイライトします。テキストを選択することで、ショートカットを使ってそのままクリップを編集したり、シークエンスの中から必要な言葉を探すこともできます。また、マスタークリップがすでに文字起こしされている場合には、SubCap も簡単に作成できます。

シークエンスに自動で SubCap を追加

文字起こしをインポート/エクスポートして SubCap として使用する機能は、Media Composer 2024.2 で追加されました。最新バージョンでは、この作業を自動化できます。

この機能を使用するには、タイムラインを右クリック > [SubCap を作成] を選択するか、[タイムライン] メニュー > [文字起こし] > [SubCap を作成] を選択してください。



トラック選択ダイアログボックスが開くので、文字起こしに使用するべきトラックを選択します。[マスタークリップの文字起こしをシークエンスに使用する] チェックボックスが選択されていると、マスタークリップが既に文字起こしされている場合はそれを使用することで、CPU パワーを抑えます。チェックを外すと、フォアグラウンドで文字起こしを実行します。

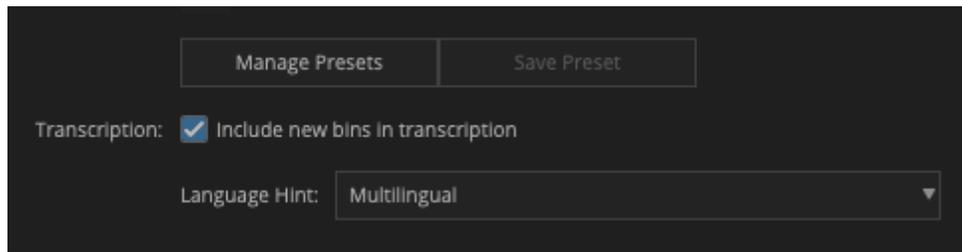
 チェックボックスが選択されているがマスタークリップが文字起こしされていない場合は、SubCap 作成の前にマスタークリップの文字起こしが実行されます。この場合、シークエンス自体を文字起こしするより時間がかかる場合があります。

カスタム設定で文字起こし

ピンでクリップを選択し、右クリック > [文字起こし] > [文字起こし] を選択すると、トラック選択ダイアログが開き、文字起こしで使用するべきトラックを選択できます。また、文字起こしの言語を指定することもできます。これにより、クリップごとに文字起こしの言語を指定することができます。クリップの文字起こしの状態は、ピンの新しい [Transcription] コラムで確認できます。

新規プロジェクト作成時に文字起こし設定

新規プロジェクト作成時に、[Language Hint] や [Include all bins in transcription (すべてのピンを文字起こしに含める)] といったオプションが選択できます。プロジェクト作成時に、どのクリップがバックグラウンドで文字起こしされるかを設定できます。この設定はプロジェクトを使用するすべてのユーザーに有効なため、プロジェクト共有時にも適切なコントロールが可能です。



 特定のワークステーションで *Transcript* 設定が *Site* 設定になっている場合、このオプションはグレイアウトします。

ビンとクリップレベルでの文字起こしステータス

文字起こしのステータスを示す改良がされました。

ビンとクリップレベルでの文字起こしステータス

どのクリップが文字起こしされているのか、どの言語が使われたのかを示す、新しいコラムが追加されました。文字起こしツールを開かなくても、クリップの文字起こしのステータスを確認できます。このコラムが空である場合は、そのクリップが文字起こしされていないことを示します。

	Name	Transcription
	Sc03 Score	No Speech Detected
	8A/001	English A1-8
	8A/002	English A1-8
	8A/003	English A1-8
	8A/004	English A1-8

プロジェクト/ビンサイドバーステータス

プロジェクトとビンサイドバーに、どのビンが文字起こし対象となっているか (“Transcription On” または “Transcription Off”) と、文字起こしの進行状況 (“Transcribed” または “No Clips To Transcribe”) を%で示します。

	Broll Clips	71K	No Clips To Transcribe
	Day 01 Shoot	30K	Transcribed
	Interviews	188K	50% Transcribed
	Music	37K	Transcription Off

 ビンが “*Transcription On*” に設定されているが、ビンの中にマスタークリップが何もないときは、 “*No Clips To Transcribe* (文字起こしするクリップがありません)” と表示します。シークエンス、サブクリップ、グループクリップ、オーディオトラックを持たないクリップが含まれます。

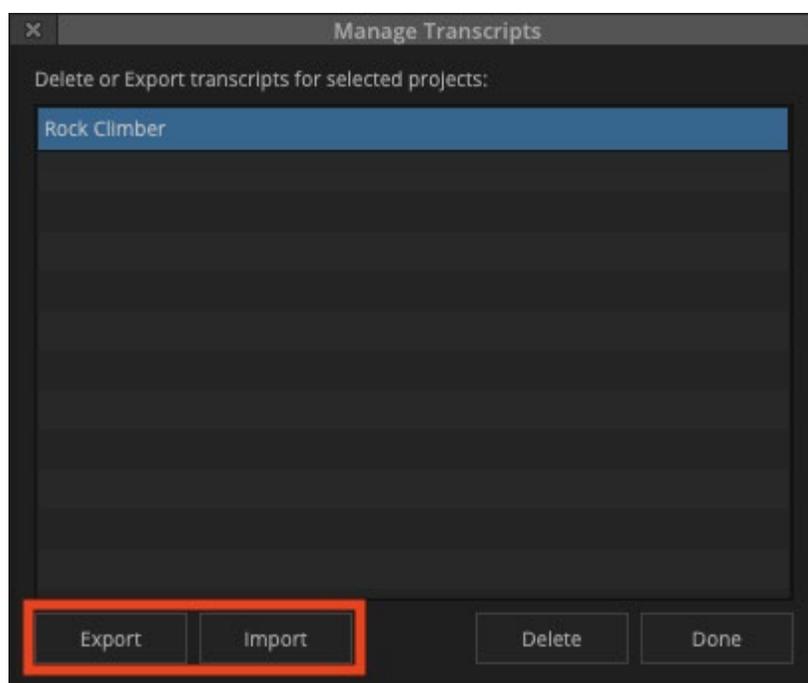
 文字起こしステータスは、ビン内のオーディオを持つマスタークリップのみを対象とします。

 ビン内に *Media Offline* のクリップがある場合、完了率の計算に含まれます。

ワークステーション間で文字起こしの共有とアーカイブ

Media Composer v2024.6 以前では、各コンピューターワークステーションで個別に文字起こしを作成する必要があり、場合によっては負荷の高い処理と長い時間が必要でした。現在、ユーザーはプロジェクトを文字起こしし、その情報を他のワークステーションにエクスポートしたり、アーカイブ目的でエクスポートしたりできます。たとえば、1つのワークステーションでプロジェクトのすべてのメディアを文字起こしし、他の編集者と共有できます。文字起こしは、プロジェクト、複数のプロジェクト、シークエンス、クリップのレベルで共有できます。これにより、ワークステーション間で転送される特定の文字起こしをより柔軟に制御できます。

この機能には、検索設定、文字起こし設定、文字起こしメニューの [文字起こしを管理] ウィンドウからアクセスするか、ビン内のアイテムを右クリックして文字起こしサブメニューから [文字起こしを共有] を選択します。これにより、クリップとシークエンスの文字起こしを共有できます。文字起こしの管理ウィンドウを使用して、共有された文字起こしをインポートすることもできます。



 シークエンスの文字起こしを共有した場合、シークエンス内のすべてのマスタークリップの文字起こしが共有されます。

 現在のところ、話者 ID を共有することはできません。

リストツールで Unicode のファイル出力をサポート

リストツールは、言語と文字のサポートを強化するために、デフォルトで Unicode データ (UTF-8) としてファイルを出力するようになりました。UTF-8 出力は、リストツールのプレビューペインで右クリックし、UTF-8 のオプションを選択することで有効または無効にできます。

マーカーツールのパフォーマンス改善

マーカーツールでインポート、削除、その他のオペレーションのパフォーマンスを向上しました。インポートではこれまでより 50% 程度早く処理できます。また、マーカーの個数制限 (10,000 個) も廃止しました。

NRCS ウィンドウでシークエンステンプレートをサポート

NRCS ツールの右上にある [シークエンスを作成] ボタンをクリックしたとき、有効なシークエンステンプレートをサポートされます。

Legal Notices

Product specifications are subject to change without notice and do not represent a commitment on the part of Avid Technology, Inc.

This product is subject to the terms and conditions of a software license agreement provided with the software. The product may only be used in accordance with the license agreement.

This product may be protected by one or more U.S. and non-U.S. patents. Details are available at <https://www.avid.com/legal/patent-marking>.

No part of this document may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying and recording, for any purpose without the express written permission of Avid Technology, Inc.

Copyright © 2024 Avid Technology, Inc. and its licensors. All

rights reserved. Portions © Copyright 2003-2007 of MOG

Solutions.

Attn. Government User(s). Restricted Rights Legend

U.S. GOVERNMENT RESTRICTED RIGHTS. This Software and its documentation are “commercial computer software” or “commercial computer software documentation.” In the event that such Software or documentation is acquired by or on behalf of a unit or agency of the U.S. Government, all rights with respect to this Software and documentation are subject to the terms of the License Agreement, pursuant to FAR §12.212(a) and/or DFARS §227.7202-1(a), as applicable.

Trademarks

Avid, the Avid Logo, Avid Everywhere, Avid DNXHD, Avid DNXHR, Avid Nexis, AirSpeed, Eleven, EUCON, Interplay, iNEWS, ISIS, Mbox, MediaCentral, Media Composer, NewsCutter, Pro Tools, ProSet and RealSet, Maestro, PlayMaker, Sibelius, Symphony, and all related product names and logos, are registered or unregistered trademarks of Avid Technology, Inc. in the United States and/or other countries. The Interplay name is used with the permission of the Interplay Entertainment Corp. which bears no responsibility for Avid products. All other trademarks are the property of their respective owners. For a full list of Avid trademarks, see: <https://www.avid.com/legal/trademarks-and-other-notices>.

Adobe and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. Apple and Macintosh are trademarks of Apple Computer, Inc., registered in the U.S. and other countries. Windows is either a registered trademark or trademark of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. All other trademarks contained herein are the property of their respective owners.

Avid Media Composer What's New • Created 10/25/2024